



ぐんぐん すくすく! 相生っ子!

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5
電話 0791-23-5070
FAX 0791-22-7211
E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp



第45回 相生市青少年健全育成市民大会

1 日 時 令和8年1月25日(日) 午後1時00分～午後3時30分

2 場 所 相生市文化会館 扶桑電通なぎさホール

3 プログラム

(1) さわやかあいさつ運動表彰

(2) 相生における少年非行の概況

相生警察署長

(3) いじめ防止サミットの報告

いじめ防止サミット委員会

(4) 子どもたちのメッセージ

双葉小、平芝幼の児童園児代表

(5) 記念講演

堀井智帆氏

演題 「生まれてきてくれてありがとう

～少年相談の現場から～」

近年相生市でも、ネット・スマホによる加害・被害や家庭内での子どもに対する心理的虐待の事案が急増しています。こんな時代だからこそ、私たち大人が、犯罪や非行に対する規範意識を高めるとともに、『絆』を求める子どもたちのシグナルをしっかりと受け止め、家庭・学校・地域の連携を図り、青少年の健全育成に努める必要があると考えます。

市内の幼稚園児、小学生、中学生が学校園で取り組んでいる内容の発表もあります。子どもたちの取り組みを知っていただき、今後も、子どもたちを温かく見守り、応援していくための共通の認識が広まるような大会にできたらと考えています。

今回も、相生高校、相生産業高校の皆さんに、大会スタッフとして参加していただき、司会や受付を担当してもらいます。

大人だけでなく、幼稚園児から高校生までが参加する「市民総ぐるみの相生市青少年健全育成市民大会」を目指しています。

何かと、お忙しい時と思いますが、是非、ご参加いただきたいと思います。

※詳しくは、令和8年1月号の相生市広報にチラシを折り込んでいますので、ご覧ください。

「背中を押してほしいとき、押してほしくないとき」

「なぜかきられない生徒指導」(前 哲央著 東洋館出版社)より抜粋

友達のことで悩んでいる生徒に「先生から話をしなさい」と聞くと「今はいいです。自分で言いますから、先生には知っておいてもらってだけで十分です」と言われることがあります。自分で解決したいとき、先生に望んでいるのは「見守っていてくれる」「いよいよ困ったら相談に乗ってくれる」ということであり、むしろ口出しされることや助けてもらうことばかり望んでいません。そんなときに話を勝手にどんどん進める先生は、生徒の望んでいることがわかっていないともいえます。

そこまで深刻でなくても、勉強していてわからないことが出てくることがあります。ちょっと考えたけどなかなか難しい。そういうときに、誰かが(先生が)ずっと横に来てアドバイスしてくれるとありがたいと感じるでしょう。しかしそうばかりとは限らず、逆に、時間がかかっても自力で解きたかった、という場合もあるかもしれません。その見極めは難しいのですが、少なくともどんどん声を掛けさえすればいいというわけではないということです。

「頑張れ、頑張れ」と言ってあげればよい時もあるし、「まあゆっくりやりなさい」と言ってあげるべき時もある。生徒の気持ちにそっと寄り添ってあげるのがあるときもあれば、積極的に介入していくべきときもある。その時その時の状況で、どうしてあげるのがその子にとって、最善なのかを、常に考えながら、生徒に関わっていくべきで、「自分は生徒に積極的に関わるのが好きだから」という理由で何でもかんでも関わっていく事は、お勧めできません。

子育ては期間限定の『プロジェクトX』

安藤 哲也

僕は大学を出てから22年間、サラリーマンとして働きました。当時は家庭のことをほとんど顧みない父親でした。

□ ■ ▲ ▼ ◆

その頃、我が家には、生まれたばかりの赤ん坊がいましたが、僕は「男は稼いで家族を養っていればいいだろう」と思っていました。すると大変なことが起きました。金曜日の夜も午前様だったのに、翌日の土曜日はゆっくり寝ていませんでした。赤ん坊の泣き声で目が覚めたんです。

「ママ！泣いてるよ！」と言っても返事がありません。しょうがないなと思って起き上がると、妻がいまません。

赤ん坊は抱き上げて泣き止みませんし、待てど暮らせど妻は帰ってきません。

リビングに行くと、テーブルの上に置かれた紙にこんな言葉が書かれてありました。

「ふざけんじゃないわよ！」僕は「うああ、やつちやつた！」と思いました。それからが大変でした。

子どもは3歳と0歳で、0歳児は完全母乳でした。ミルクを作っても泣き止まず、飲んでくれませんでした。どうしよう」と慌てふためきながら過ごし、5時間ほど経ったころ、家のチャイムがなりました。

インターホンに妻の顔が映った瞬間、僕は「お帰りなさいませ、お母様」と言っただけで頭を下げました。本当に、無人島で助けられたような気分でした。

ドアを開けた時、妻が言った言葉は今でもはっきり覚えています。

「分かったでしょう。仕事をしていいる方が全然楽だからね」

確かに、上司や同僚、取引先など仕事の相手はみんな言葉が通じます。

だけど、0歳児は何で泣いているのか、何をしてほしいのかを教えてくれません。私はたった5時間で懲りてしまいました。

□ ■ ▲ ▼ ◆

あの日以来、「妻はこんな大変なことを一人でやっているんだ。日本中のお母さんたちはみんなこれをやっているんだ」と、自分の母親も含めて、尊敬の念、感謝の念が生まれました。

そして、その日から僕の中の古いOS（パソコンの基本ソフト）がバージョンアップしたんです。

古いOSのまま育児に関わるのと「これは母親の仕事じゃないか」とか「俺は男だから料理がうまくないんじゃないか」など色々考えてしまうんです。

その日以来、僕は週に2回は必ず保育園にお迎えに行く事になりました。迎えに行く中で、「子育てはそのうち終わる、期間限定なんだ。ママに任せきりにせず、パパもしっかり関わっていくことが重要なんだ」と思うようになりました。

□ ■ ▲ ▼ ◆

そんな経験を経て、日本初の父親支援のNPO法人ファザーリング・ジャパンを立ち上げました。

子どもは未来の地域、未来の日本を支えていく存在です。その未来を僕たちは育てているんです。

会社の『プロジェクトX』も大事かもしれません。

しかし次世代を担う子どもたちを、活躍できる人材に育てることこそが、僕らの『プロジェクトX』なんじゃないかと思うんです。

（日本講演新聞

2014年6月9日号より）

■臨床心理士による『相生っ子悩み相談』（要予約）

令和7年 12月12日(金) 午後1時～5時
令和8年 1月23日(金) 午後1時～5時

■センター職員による教育相談もご利用ください。

○来所相談 毎週 火曜日～金曜日 午後1時～4時
○電話相談 毎週 月曜日～金曜日 午後1時～4時
(ただし、祝日は休み)

友達に言えないこと、
両親に言えないこと、
先生にも言えないこと、
ひとりで悩んでいないで、
気軽に電話してください。
小・中・高校生・保護者
ご家族の皆さんもどうぞ。

※一人で抱えこまず、お気軽にご相談ください。

※問題に立ち向かうための元気づけ、勇気づけができればと思っています。